

第2章 北谷観光の現状と課題

本町における観光の現状を把握し、観光の課題を整理します。



2-1. 北谷観光の現状

(1) 北谷町の位置等

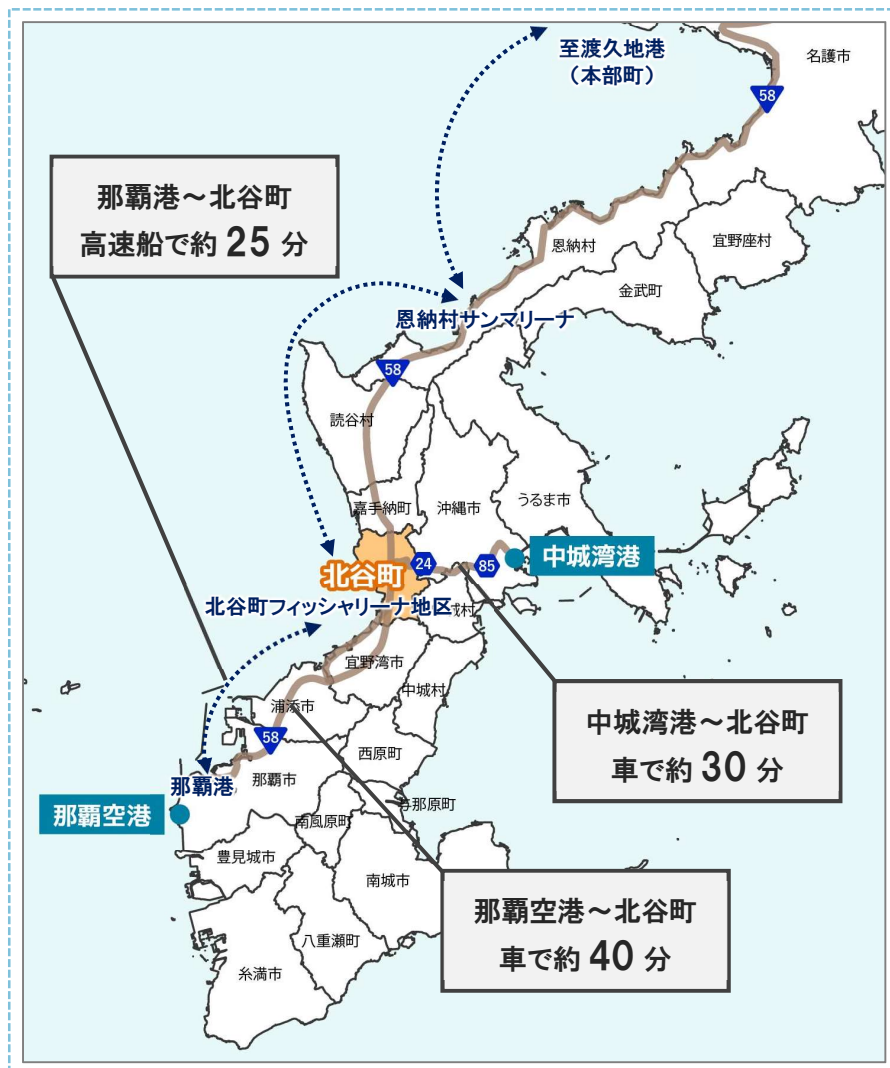
本町は、沖縄県の県庁所在地である那覇市から約16kmの沖縄本島中部に位置し、西は東シナ海に面し、東は緩やかな丘陵地形となっています。

農地や自然緑地等の自然的な土地利用と住宅地を中心とする都市的な土地利用が混在しており、住みやすく穏やかで調和のとれた環境となっています。

埋蔵文化財の分布などから、古くから開けた地ということがわかっており、農業や漁業が盛んな地域でした。しかし、米軍用地の返還や公有水面の埋立造成により、住宅地・商業地の開発が進みました。特に、海岸沿いには、県内客のみならず県外客を引き付ける魅力的な商業施設や文化施設、宿泊施設が立地し、年間1千万人以上の集客があります。

本町の面積は約14km²ですが、その約半分が米軍用地となっており、人口は約2万9千人（住民基本台帳/令和2年2月末時点）と、微増傾向にあります。

【北谷町の位置等】



(2)北谷町における観光客

沖縄県が実施した「平成 30 年度観光統計実態調査」によると、観光客の約 16%は沖縄旅行中に美浜アメリカンビレッジ地区を訪れており、特に 10～20 代の割合が多いことから若者に人気があることが伺えます。来訪回数を見ると、複数回や 10 回以上の割合が多いことからリピーターを獲得していることも伺えます。

資料編 P84 参照

観光バスツアールートを見ると、本島中部エリアで立ち寄る観光地は本町の美浜アメリカンビレッジ地区のみとなっており、本島中部エリアの主要な観光地となっています。

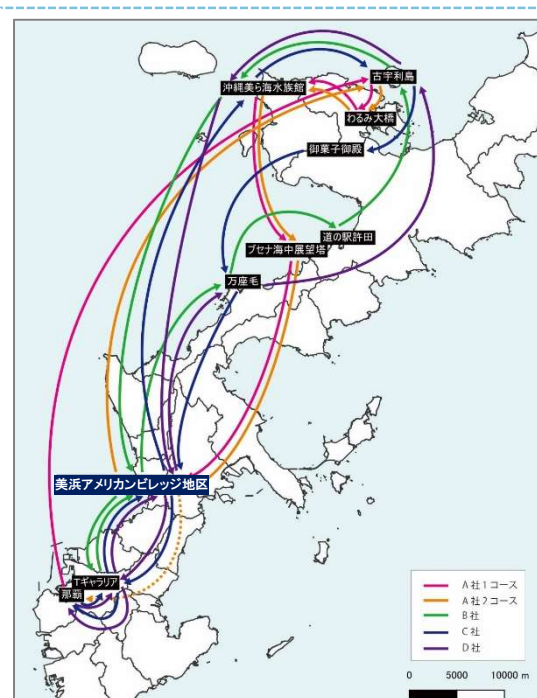
また、本町には沖縄戦の戦跡等も残されていることから、修学旅行の入込も見られます。

【北谷町を訪れる観光バスツアールート】

【沖縄旅行中に訪れた観光地・観光施設】

	平成30年度調査
海・ビーチ・海浜リゾート	56.0
世界遺産(首里城、識名園、城跡等)	41.1
海洋博記念公園(美ら海水族館等)	37.3
景勝地(万座毛、東平安名崎、川平湾等)	31.6
道の駅	31.1
テーマパーク型施設(琉球村・玉泉洞等)	17.2
北谷・アメリカンビレッジ	15.8
農水産物の直売所	15.1
戦跡地	13.9
工房・工芸体験施設(陶芸、紅型、琉球ガラス等)	13.7
原生林やマングローブ林	11.4
博物館・民俗資料館	10.9
DFS(おもろまち)	9.8
琉球音楽・舞踊施設・ライブハウス	9.7
植物園・動物園	9.3
イオンモール沖縄ライカム	7.5
あしびなー	5.8
サンエーメインプレイス	4.7
宜野湾コンベンションシティエリア	4.6
その他	10.2
	(%)

出典：平成 30 年度観光統計実態調査 沖縄県



出典：平成 30 年度北谷町外国人受入強化業務におけるアンケート調査業務（北谷町観光協会）をもとに作成

(3)北谷町における外国人観光客(インバウンド)

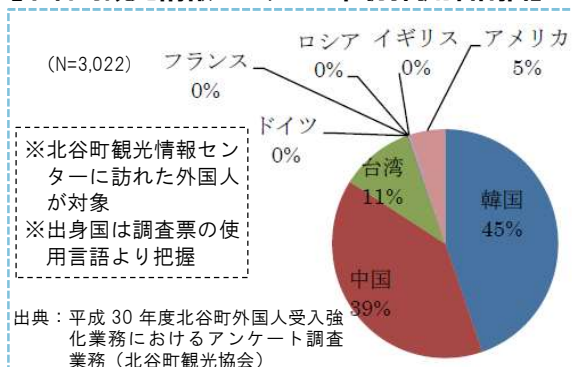
「平成 30 年度北谷町外国人受入強化業務(北谷町観光協会)」におけるアンケート調査業務の結果によると、本町の外国人観光客は韓国・中国・台湾の割合が多く、アジア圏からの来訪が多い傾向となっています。属性を見ると、年齢は 20 代・30 代、同行者については家族連れが最も多い傾向となっています。また、北谷町を知ったきっかけはネット・ウェブサイトが最も多く、次いで SNS となっています。

また、訪問回数は 1 回が最も多くなっていますが、リピート客もあり、特に韓国語と英語使用者が多い傾向となっています。訪問目的はショッピングと食事が多く、使用金額は 1～3 万円程度が多い傾向となっています。

さらに、「北谷町へまた来たい」という回答が多く、満足度が高い傾向となっています。

資料編 P86-87 参照

【北谷町観光情報センターの国別利用者割合】



(4) 主要な観光・地域資源

本町では、海や眺望等の自然を楽しめるとともに、歴史や文化、商業など多様な観光・地域資源が町全域に存在しています。特に西海岸沿いには海や商業施設をはじめとした観光・地域資源が集積しています。

本計画策定時の平成26年からの変化としては、平成28年に北谷町フィッシャリーナ地区の土地処分が完了し、リゾート商業やリゾートホテル等が開業したほか、平成31年4月には美浜アメリカンビレッジ地区海岸景観改良工事が完成するなど、公民連携による都市型オーシャンフロント・リゾート地形成への取り組みが進められてきました。

【主要な観光・地域資源】



資料編 P88-96 参照

(5) 宿泊施設の状況

町内に所在する宿泊施設は、本計画策定時の平成 26 年と比較すると、北谷町フィッシャリーナ地区の国際的な大型宿泊施設をはじめとしたリゾートホテルが多数開業し、平成 31 年 3 月現在、旅館業法による中部保健所での登録施設数は 146 件、客室数は 2,228 室となっています。また、令和 2 年度には北谷町フィッシャリーナ地区において、新たな宿泊施設 2 件が開業予定となっています。

さらに、住宅宿泊事業法（民泊新法）による中部保健所での登録施設数は 101 件となっています。

(6) 周辺地域の概況

本町及び周辺地域の観光振興計画の概要や宿泊施設数、直近の主な開発動向について以下に整理します。

	北谷町	宜野湾市	浦添市	西原町	中城村	北中城村
計画名称	北谷町観光振興計画	第二次宜野湾市産業振興計画	浦添市観光振興計画	西原町観光振興計画	中城村観光振興計画	北中城村観光振興基本計画
観光振興計画のテーマ	沖縄 ウォーターフロント・リゾート 北谷	—	「古の王城と新たないぶきに出会う てだこ(太陽の子)のまち うらそえ」	文教のまち西原	心豊かな暮らし～住みたい村、とよむ中城～	平和で人と緑が輝く健康寿命と文化のむらきたなかぐすく
観光振興計画期間	平成 26 年度～令和 5 年度	令和元年度～令和 5 年度	平成 30 年度～平成 37 年度	平成 30 年度～平成 39 年度	平成 30 年度～平成 39 年度	平成 27 年～平成 36 年度
宿泊施設客室数(室)	2,060	761	113	34	24	343
(対県割合)	4.16	1.54	0.23	0.07	0.05	0.69
宿泊施設収容人数(人)	6,326	2,034	288	53	48	689
(対県割合)	4.78	1.54	0.22	0.04	0.04	0.52
直近の開発動向	・ダブルツリーby ヒルトン 沖縄北谷リゾート開業 ・リンクスホテル開業 ・ラ・ジェント・ホテル 沖縄北谷開業 ・ココシャスモンパ開業	・沖縄西海岸道路開通 ・キャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地区)返還	・沖縄西海岸道路開通 ・サンエー浦添西海岸 PARCO CITY 開業	・西原町民陸上競技場整備事業	・吉の浦公園施設機能強化整備事業	・アワセ土地地区画整理事業 ・イオンモール 沖縄ライカム開業
主な観光施設	・美浜アメリカンビレッジ	・普天満宮 ・トロピカルビーチ	・浦添大公園 ・港川外人住宅	・西原キラキラビーチ ・内間御殿	・中城城跡 ・中城公園	・中城城跡 ・中村家住宅
まつりイベント	・北谷の産業まつり ・北谷ニライハーリー ・エイサーフェスティバル ・シーボートチャタンカーニバル ・C-1 グルメフェア	・琉球海炎祭 ・青年エイサーまつり ・はごろも祭り ・宜野湾市産業まつり	・てだこまつり ・キンザーフェスティバル	・西原町の産業まつり ・西原まつり ・平和音楽祭	・中城護佐丸まつり ・中城ツワブキまつり	・北中城まつり ・青年エイサーまつり ・ひまわり祭り

	沖縄市	うるま市	恩納村	読谷村	嘉手納町
計画名称	沖縄市観光振興基本計画	第 2 次うるま市観光振興ビジョン	恩納村第 3 次観光振興計画	読谷村ゆたさむら推進計画	第 2 次嘉手納町観光振興基本計画
観光振興計画のテーマ	ものづくり観光の都市 沖縄市	住んで自慢のまちをつくり、訪れて感動を与える・うるま	風と光が流れ、時を忘れる村 恩納村	—	ひと、みらい輝く交流のまち かでな
観光振興計画期間	平成 29 年～平成 33 年度	平成 29 年～平成 38 年度	平成 29 年度～令和 8 年度	—	平成 30 年～平成 36 年度
宿泊施設客室数(室)	958	715	4,963	1,254	27
(対県割合)	1.93	1.44	10.01	2.53	0.05
宿泊施設収容人数(人)	2,162	2,572	17,371	3,840	62
(対県割合)	1.63	1.94	13.12	2.90	0.05
直近の開発動向	・複合施設「パーチェ山里」完成	・うるま市農水産業振興戦略拠点パス	・ハイアットリージェンシー 瀬良垣アイランド沖縄 ・ロワジュール リビングス イーツ 瀬良垣	・グランディスタイル 沖縄 読谷 ホテル&リゾート	・道の駅かでなりニューアル事業 ・比謝川緑地広場整備事業 ・水釜護岸景観整備事業
主な観光施設	・沖縄こどもの国 ・東南植物楽園	・ピオスの丘 ・海中道路 ・勝連城跡	・万座毛 ・琉球村 ・真栄田岬	・体験王国むら咲むら ・Gara 青い海	・ネーブルカデナ ・道の駅かでな
まつりイベント	・沖縄市産業まつり ・沖縄こどもの国花祭り ・おきなわマラソン ・沖縄全島エイサーまつり	・あやはし海中ロードレース大会 ・うるま市エイサーまつり ・龍神の宴	・うんなまつり ・恩納村美ら海花火大会 ・恩納村産業まつり	・読谷まつり ・読谷青年エイサーまつり ・読谷ハーリー大会	・比謝川鯉のぼりフェスタ ・嘉手納町エイサーまつり ・野國徳管まつり ・嘉手納産業まつり

※宿泊施設数及び宿泊施設収容人数は、平成 30 年沖縄県「宿泊施設実態調査」より

2-2. 北谷観光の特徴

「2-1. 北谷観光の現状」を踏まえて、本町の観光地域の特徴を以下に整理します。

① 本島中部の主要観光地域

本町は、首里城や美ら海水族館など本島南部・北部エリアの主要な観光スポットと並ぶ本島中部エリアの主要な観光地域となり、特に美浜アメリカンビレッジ地区及び北谷町フィッシュアリーナ地区は国際色豊かな飲食店や物販店が立ち並び、老若男女問わず観光客の誘客力の高い観光地域となっています。

② 沖縄リゾートを代表する都市型オーシャンフロント・リゾート地

西海岸地域は、美浜アメリカンビレッジ地区及び北谷町フィッシュアリーナ地区を中心にビーチやボードウォーク、公園、商業施設、宿泊施設などがコンパクトに集積し、世界で通用する観光リゾートの雰囲気を感じながら徒歩や域内交通等で回遊できる「都市型オーシャンフロント・リゾート地」を形成しています。

③ マリンアクティビティ等の充実と夕日の魅力

本町は、西海岸一帯で海の恩恵を享受し、宮城・砂辺海岸におけるダイビングやサーフィンなどのマリンアクティビティをはじめ、家族が気軽にマリンレジャーを楽しむサンセットビーチや約600mの砂浜が続き開放感あふれるアラハビーチを有しています。また、広大な水平線に沈む夕日はダイナミックで国内外を代表する自然景観であり、季節ごとに変わる夕日の美しさは最大の魅力となっています。

④ リゾートホテル等の宿泊施設が集積したエリア

本町は、本島北部・南部や東海岸の観光に行くにも優れた立地にあるとともに、周辺地域と比べ、リゾートホテル等の多様な形態の宿泊施設が充実していることから、沖縄県における滞在型観光拠点のひとつとなっています。

⑤ 美浜公共駐車場や交通アクセスの多様性

沖縄県の観光地域では類をみない約1,500台収容可能な無料の公共駐車場を有しています。また、那覇空港や中城湾港（クルーズ船寄港地）から約40分圏内に位置し、交通手段として、車（レンタカー）やバス・タクシーのほか海上高速船も運行し、交通アクセスの多様性があります。

⑥ 集客力の高い観光イベント

沖縄観光のトップシーズン・初夏到来を告げ県内外から7万人余を集客するシーポートちやたんカーニバルをはじめ、北谷ニライハーリー、エイサーフェスティバル in 北谷など、本町の持つ自然・風習、地域に誇る伝統文化など、ソフトパワーによる集客力の高い観光イベントが年間を通じて多数あります。

⑦ 外国人観光客（インバウンド）にも対応した観光案内所

本町は、日本政府観光局（JNTO）認定の外国人観光案内所・カテゴリー2を有し、英語で対応できるスタッフの常駐をはじめ中国語や韓国語にも対応でき、町内外の広域的な観光案内を提供しています。

2-3. 課題

第1章で整理した国や沖縄県の観光動向や観光施策等の観光を取り巻く社会動向と、本章で整理した北谷観光の現状や特徴を踏まえて、本町が観光振興を推進する上で観光客に選ばれる観光地域としていくためには、認知度や観光資源の魅力の向上を図るとともに、観光客が訪れる動機付けを高めていくことが重要となります。

また、観光客を受け入れていくためには、町民、観光事業者、観光関連団体、観光協会、行政が連携・協力して取り組んでいくための体制強化が必要であります。

一方、観光客の誘客にこだわり、観光客が地域を訪れることによって発生する交通渋滞や風紀の乱れなど、いわゆる、オーバーツーリズムによって地域に悪影響をもたらさぬよう最大限に配慮し、安全・安心・快適な観光地域づくりに取り組まなければなりません。

このように、町民の暮らしを豊かにし、町民が誇りに思える魅力的かつ持続的な地域を創ることは、観光客が来訪したい観光地域を創ることに繋がります。

本町の課題を以下に整理します。

【本町における観光の課題】

(1) 北谷の認知度の向上

- 象徴的なブランドの確立
- 情報発信の継続

(2) 北谷観光の魅力度の向上

- 歴史・文化資源の活用
- 観光資源の高付加価値化
- 戦略的な観光コンテンツの提供
- 交通アクセス性の向上
- 回遊性の向上
- 快適性・安全性の向上

(3) 推進体制の強化

- 関係者の役割の明確化と共通認識
- 連携・協力するための仕組みづくり

(4) まちづくりへの展開

- 観光を通じた地域活性化
- 民間活力の導入
- 受入れ環境の充実
- SDGsへの貢献

(1)北谷の認知度の向上

【象徴的なブランドの確立】

他の観光地域との差別化を意識し、異国情緒のある街並みや夕日の風景など「北谷と言えば〇〇」といった象徴的なイメージを確立することが必要です。

【情報発信の継続】

インターネットやメディア等の多様な媒体を活用し、最新の情報を繰り返し発信し続けることが必要です。

(2)北谷観光の魅力度の向上

【歴史・文化資源の活用】

北谷町を知ってもらうきっかけとして、戦跡や国指定史跡伊礼原遺跡など町内に点在する歴史資源や、エイサー・綱引きなどの伝統芸能をはじめとする文化資源を活用することが必要です。

【観光資源の高付加価値化】

魅力をより一層高めていくために、町内に点在する多様な地域資源を組み合わせたストーリーづくりなど、観光コンテンツの付加価値向上が必要です。

【戦略的な観光コンテンツの提供】

持続性のある観光地域として発展するには、一度来て終わりではなく「北谷」ファンになっていただきリピーターになってもらう事が重要となります。また、短時間ではなく1日や数日に渡り滞在していただき、観光消費額を増やしていくことも重要となります。

リピーターを増やすとともに、滞在時間と消費額を増やすため、マーケティングに基づきエンターテインメントやスポーツ・ツーリズムなどの観光コンテンツの創出・提供が必要です。

【交通アクセス性の向上】

自家用車やレンタカーでのアクセスが主である現状を踏まえると、交通渋滞対策や駐車環境の充実が必要です。一方、交通弱者も容易にアクセス可能なバスや海上交通を含めた公共交通のネットワーク形成が求められます。

【回遊性の向上】

色々な場所への行き来を楽しめるように、安心して歩行できる環境を確保するとともに、自転車や自動走行カート等の交通機能・サービスの充実、そして、各観光スポットを結ぶバスの運行など、利用者のニーズに応じた移動手段を提供し、回遊行動を促進することが望まれます。

【快適性・安全性の向上】

訪れた全ての方に配慮し、居心地が良く快適に行動できる環境づくりに取り組むとともに、災害時には観光客の安全確保に向けた観光危機管理が必要です。

(3)推進体制の強化

【関係者の役割の明確化と共通認識】

観光は多様な主体の協働によって実現されるものであるため、施策を効果的に実現する上での前提として、行政・北谷町観光協会・地域DMO・観光関連団体・観光事業者など各主体の役割を明確化し、共有することが必要です。

【連携・協力するための仕組みづくり】

各主体や地域が連携して観光施策を実現するためには、計画を共有し、施策推進上の課題等を協議・調整する場づくりが望まれます。

観光まちづくりの牽引役となる人材や、国内外の観光客に対する接遇の向上など様々な場面で観光振興に資する人材の育成が必要です。

(4)まちづくりへの展開

【観光を通じた地域活性化】

観光による地域活性化を目指す「観光まちづくり」に向けて、地域が主体となって、自然、文化、歴史、水産業・農業、人材など、地域のあらゆる資源を活かすことによって、交流を促進し、活力あふれるまちを実現するための活動が必要です。

【受入環境の充実】

今後も増加が予想される外国人観光客などの誘客やリピーターの確保に向けて、訪れる方々の満足度を高める快適な環境整備やおもてなしの充実等について、町民・観光事業者・行政などの各主体が連携して取り組む必要があります。

【民間活力の導入】

魅力的な観光地域づくりに向けて、民間による土地活用やサービス提供を積極的に導入することで、市場性やニーズを捉えた事業展開が期待されます。

【SDGsへの貢献】

SDGs（エスディージーズ）とは「Sustainable Development Goals（サステナブル・デベロップメント・ゴールズ）」の略称で、日本語では「持続可能な開発目標」と訳されています。地球上の美しい景色や先祖から引き継いできた文化・遺産を、次世代に引き継いでいくための人類共通の目標であり、できることから貢献していくことが求められる時代が到来しています。観光開発はすべてのSDGs達成に向けて十分に貢献できることが認められており、観光振興を進める上でも考慮することが必要です。